

伝えたい 由布のもの NO. 4



〈取材・文〉
岡田鹿乃子
Kanako
Okada

斜面に広がる可憐なミツマタ群生地

今回の〈伝えたい由布のもの〉は地域の方も驚きの由布のものです。西大津留「竹の中地区」の斜面に広がる可憐な〈ミツマタ群生地〉を紹介します。

いま、ミツマタが見頃を迎えています。ご存知の方も多いと思いますが、ミツマタという名前は枝の先がどれもこれも3つ、3つに又が分かれて育つところから名付けられたといえます。可憐な姿のミツマタは群れて咲くのも特徴です。ミツマタは昔から、樹皮の部分を紙すきの繊維として使用してきたようです。

そんなミツマタの群生地が西大津留「竹の中地区」に広がっています。15年ほど前、大津留仁さんが所有する山の杉が台風により倒木。その頃少しだけミツマタが咲いていたといえます。その後ミツマタの邪魔にならないようにと杉の代わりにイチヨウを植え、斜面を整備したところ、上は標高700mほどの場所までミツマタの群生が広がり始めたといえます。今では毎年大津留まちづくり協議会のみなさんも参加し、まっすぐには進むことのできないような角度のついた斜面の整備が冬の恒例行事となりました。偶然の出来事と大津留さんや大津留まちづくり協議会の取り組みによって、杉に隠れていたミツマタは日を浴びるようになり壮大な群生地に成長しました。

ミツマタの群生地について大津留さんは「大津留地区でもぼつぼつとミツマタが咲いている場所があるようだがここまで広がっている群生地は聞いたことがない」とのこと。その規模およそ2〜3町（2〜3ヘクタール）ほどの群生地。ミツマタの群生地が接する大津留から湯布院までの中部林道で、秋はイチヨウ、冬にはミ

東京都出身。進学・就職を経て2020年8月に由布市の地域おこし協力隊に着任。移住定住担当として活動しています。今は竹細工教室へ通うのが楽しみのみ1つです。

● 問い合わせ 総合政策課 ☎097-582-1158

ツマタを見て安らぎの時間を過ごしてもらえたらうれしいと話していました。驚いたことにミツマタの群生地のでっぺんあたりにはお地藏様がたくさん並んでいたそうです。今は大津留さんのご自宅に保管されていますが、昔は道なき道を登り、お参りをするような神聖な場所だったのかもしれない。

大津留でのミツマタの見頃は3月初旬〜3月末頃まで。今年も整備を行い、多くのつぼみが一面に開いているところです。ミツマタの群生地は細い山道をくねくねと登った先に広がっています。そう簡単には訪れることができない場所ですが、苦勞してめざす先には黄色いミツマタが斜面いっぱい広がっていることと違います。春の訪れを味わいに、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょう。訪れる際は、くれぐれもお足元にお気をつけください。大津留さん、大津留まちづくり協議会のみなさん、ありがとうございました！



写真提供：三原萌枝さん

ご案内

おおつる交流センターにお立ち寄りいただくと、道の案内ができるそうです。
(電話でのお問い合わせは遠慮ください)

〈伝えたい由布のもの〉

詳細は由布市地域おこし協力隊のFacebook・Instagramでも紹介しています。ぜひご覧ください。



▲由布市公式ホームページ
(由布市地域おこし協力隊)